

ソーシャルメディアと現実との差異を生む心理

荒牧英治 (奈良先端科学技術大学院大学)

Eiji Aramaki (NAIST)

デマ¹に関して重要なことがある。しかも、だれもがうすうす感じているが、それが指摘されることは滅多にない。それは、デマが面白いということだ。ウィットに富んだユーモアから、時には眉をしかめるブラックなものまで、読むとニヤリとしてしまうものが多い。そういうデマをつい人に言いたくなる。逆に言えば、とりたてて面白くないデマは淘汰される可能性がある。本研究は、この〈面白さ／情報として魅力〉という観点で、デマを議論する。

近年、Twitter などのソーシャルメディアが急速に普及している。ソーシャルメディアは、もはや、電話や電子メールと同じような社会の基盤インフラの1つになりつつあると言えよう。しかし、一方で、情報漏洩やデマ、流言の拡散などの問題も抱えている。デマについては、研究の歴史が古く、これまで多方面から考察がなされてきた(Knapp 1944) (オルポート and ポストマン 2008)。なぜ流言が拡散するのかについても、既報が多い。中でも、有力なのが善意からのデマ拡散である。一般に人々がある情報を他者に伝える場合、その情報を正しいと思って伝えていることが多い。つまり、本人がでたらめだと思っ話(悪意をもって)伝えているのではなく、善意の情報提供が結果として、デマとなってしまったとする考えである(川上善郎 1997)。

他にも、曖昧な状況に巻き込まれた人々が、自分たちの知識や情報を寄せ集めることにより、その状況について意味のある解釈を行おうとするコミュニケーションがデマであるという考察もある(佐藤健二 2007)。

いずれにしても、デマは有用な情報を含んでいるように見え、それを共有するための必要性

を持って拡散されているとされている。この場合、もし事前に、伝達内容が虚偽であることを認識していれば、デマは拡散しないはずである。

しかし、ソーシャルメディア上の実際のデマはどのようなものであろうか？和歌山大学と奈良先端科学技術大学院大学で共同研究開発を行っている**流言情報クラウド**から収集した50のデマとその虚偽に見える程度(以降、でたらめさ、と呼ぶ)を表1に示す

表 1: 50 のデマとそのでたらめさ (何%の人間がでたらめだと思ったか? 100 (%) は全員がでたらめだと判定したデマ)

「瓶覗き」という色は、瓶の水に映った空の色である	40
5月24日は「ホモセクシュアルの日」である	30
iPhoneで「*#06#」に電話すると、製造された国がわかる	50
iPhoneを電子レンジでチンすると充電ができる	100
newsという英単語は、North, East, West, Southの頭文字を並べたものである	30
Windowsでprnというフォルダが作れないのは、ビル・ゲイツの昔のあだ名だったから	70
『アルプスの少女ハイジ』の監督は、宮崎駿である	40
アロンアルファは、実は身体にまったく害がなく、舐めると甘い	100
イソジンは明治製菓が作っているので、よくうがいするとチョコの味がする	90
エスキモーの言語には「雪」を表す言葉がたくさんある	30

¹ デマと類似した表現として流言、噂、風評などがあるが、これらの定義の違いについては諸説あり、文献に異

なる。本研究では、十分な根拠がなく、その真偽が人々に疑われている情報をデマと呼ぶ。

オバマ大統領はアメリカ国籍ではない。また、彼はイスラム教徒である	90
オバマ大統領が、Twitter であかり大好き bot をフォローしている	70
カップラーメンに入っているかやくは「乾燥野菜クズ」の略である	70
かめはめ波の中国語訳は「小籠包」である	80
サントリーのコントレックスには「放射性重金属核種の防御性」があり、セシウムなどの体内吸収を防ぐ効果がある	60
コンピュータは、水だけではなく花粉にも弱い	0
ジェットコースターに乗る前にフリスクを食べると酔わない	90
「ジングルベル」は「シングルベル」のドイツ語読みである	90
スピリタス 500ml を一気飲みすると、放射能が体内から出る	100
「てへぺろ」はアボリジニの言葉で、言った相手に殺されても仕方がないほどの侮辱語である	80
カラメルソースの「カラメル」は「絡める」に由来する	80
ホタルは 0.5 μ Sv/h で光らなくなる	50
ホログラムがない一万円は偽物である	20
「マルマルモリモリ」はアイヌ語である	40
選挙で、漢字の候補者名をひらがなで書いて投票すると無効になる	50
携帯電話の「0」か「#」を長押しすると、大音量で防犯ブザーが鳴る	80
携帯電話での通話は、逆探知されない	100
のど仏が出ている人は声が低い	20
「根比べ」の語源は「コンクラーベ」である	80
砂糖は漂白されている	60
坂から iPhone を転がすと、その摩擦で充電できる	100
自衛隊は軍ではないため、ジュネーブ条約における「捕虜」としての資格が無い	50
自転車の制限速度に関する法律はない	60
車載バッテリーを使えば、iPhone を一瞬で充電できる	90

消しゴムのカスを集めて練ったものを冷蔵庫に入れて寝かせると、市販の練り消しみたいによく伸びるようになる	60
水戸黄門が放送を終了したのは、三ツ葉葵が商標登録されたからである	70
青と赤に塗装された教育用カスタネットの名前は「ミハルス」である	30
「ア・バオア・クゥー」の名前の由来は「青葉区」である	80
人間は、体温が 42 度になると血液が沸騰する	80
大阪では土曜日の正午を大阪城の大砲で知らせる習慣があり、これが「半ドン」という言葉の語源となった	50
電子レンジで熱した水を、冷ましてから植物に与えると枯れる	80
「豆腐」と「納豆」の名称は、もともとは逆だった	80
動物の「肉球」は生え変わる	80
静岡県浜松町の名物は「ウナギ」である	10
放射性ヨウ素を煮沸するとなくなる	90
北欧には解雇規制がない	60
漫画で人の寝息を zzz と表現するのは、手塚治虫が走り書きでスヤスヤと書いたのをアシスタントが誤読したところから始まった	30
野菜を洗濯用洗剤で洗うと、酵素のチカラで身体に良くなる	100
劣化したディスクドライブのゴムベルトは、電子レンジで温めると直る	80
日本で唯一アニメイトがない県は和歌山県である	60

結果、平均すると 64%もの人々がこれらを、でたらめなデマだと判定している。中には 100%でたらめだというものもある。このような明らかに虚偽であると容易に判明する情報が、必要性を持って拡散されたとは考えにくい。では、なぜこれらの情報は拡散されるのであろうか？

100%でたらめな情報には、以下のような行為が含まれている：

- iPhone を電子レンジでチンする
- アロンアルファを舐める
- スピリタスを一気飲みする

- 野菜を洗濯用洗剤で洗う

いずれも、やろうと思えば実行可能だが、実行したことがある人は滅多にいないであろう。大きな害がないのも特徴的である。「野菜」を「小猫」に置き換えて、これを洗濯用洗剤で洗うことを想像すると、とたんに単なる悪趣味な発言になる。

議論は、今後の課題としたいが、100%でたれめだという情報は、つい周りの人に伝えたいくなる情報としての魅力に富んでいるようにみえる。この情報としての魅力とは何なのであろうか？面白さと言ってもよいが、さらに、正確を期すならば、毒にも薬にもならない無邪気さのようなものがそこあるように感じる。

最後に、応用面からの研究の必要性も付記する。従来から、デマの訂正が困難であることが指摘されていた(図1)。これは<情報としての魅力>という観点からは、自然に説明できる。つまり、デマは面白いが、デマの訂正は面白くないからなのである。もし、本当にデマを訂正しようとする、当初あったデマよりも、魅力的な事実を明るみに出すような訂正を行う必要がある。創造的で独創性のある発言こそがデマを訂正できるとすれば、その文才は極めて実利的な才能となるかもしれぬ。

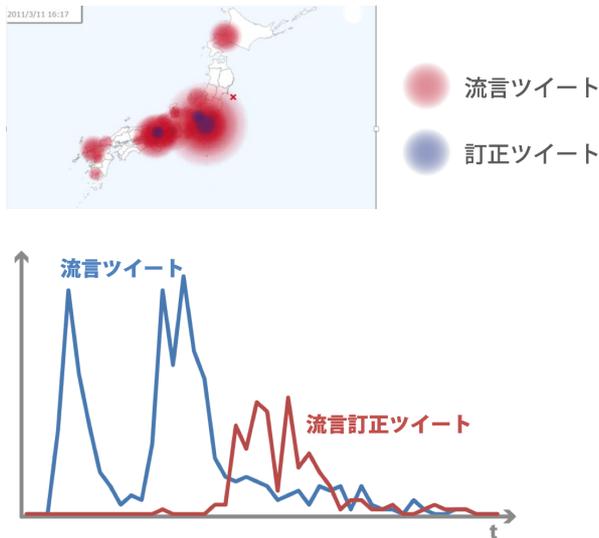


図1: デマ訂正が広まらないという観測的事実。2011/3/11 Twitter上のD社員によるデマ「地震が起きた時、社内サーバールームにいたのだが、ラックが倒壊した。腹部を潰され、血が流れている。痛い、誰か助けてくれ。」の拡散と訂正ツイートの地理/時間分布。

材料・方法

本研究の材料は、流言情報クラウド(Miyabe, Miura et al. 2012)上で収集した2012年6月22日から1年間のデータを用いた。まず、2012年6月22日から2013年6月21日までに訂正キーワードをもとに収集・抽出した訂正情報から以下の手順でデマを抽出した。

- 流言マーカーを含むツイート群を収集する。ここでいう流言マーカーは、以下の文字列とする：

デマ、嘘、ツリ、釣り、偽情報、ガセ、ネタ、誤報、都市伝説、ウソ、狂言、迷信、間違い、いたずら、チェーンメール

- ここから、“「~」というデマ”のような、流言部分が明示的な訂正情報については、パターンマッチングにより訂正情報に含まれる流言部分を抽出する。

このようにして得られたデマについて、10名(共著者を含む)により、それぞれのデマについてその尤もらしさ、「この情報は正しいと思いますか？」を質問し、集計した。

参考文献

Knapp, R. (1944). Rumor clinic.
Miyabe, M., A. Miura and E. Aramaki (2012). Use trend analysis of twitter after the great east japan earthquake. ACM 2012 conference on Computer Supported Cooperative Work Companion: 175-178.
オルポート, G. W. and L. ポストマン (2008). デマの心理学, 岩波書店.
佐藤健二 (2007). 関東大震災後における社会の変容. 立命館大学・神奈川大学 21世紀 COE プログラムジョイントワークショップ報告書 「歴史災害と都市 -京都・東京を中心に-」.
川上善郎 (1997). うわさが走る: 情報伝播の社会心理. うわさが走る, サイエンス社.